

子どもの居場所づくり事業

大田区社会福祉協議会
地域福祉コーディネーター
武藤 溪一

複合的な課題



子どもの貧困

区内の課題

- ・情報弱者
- ・手続きが苦手
- ・生活習慣の乱れ
- ・経験の機会の少なさ



わくわくほーむ



不登校

区内の課題

- ・学習機会の確保
- ・日中の居場所
- ・学校以外の経験の場
- ・低学年の不登校
- ・保護者の送迎



のびのび 2

わくわくほーむ



- ・平成31年から実施
- ・年2回夏休み・冬休みに実施
- ・「学習」「食事」「体験」を柱に企画
- ・支援者と連携して保護者を後押し
- ・社会福祉法人と連携して運営
- ・活動を通して子どもの自尊心を向上

- ・今年度10月から月に1回第4金曜日に実施
- ・「学習機会の確保」と「体験」を重視
- ・教育センター・子ども家庭支援センターとの連携
- ・学習支援団体・不登校経験のあるVO



のびのび

のびのび

- ・10月 初回実施 9名参加
- ・11月 2回目実施
- ・12月 中止
- ・1月 中止
- ・2月 時間短縮・実施
(プログラム変更)

調理・食事プログラムをメインに据えていたため、感染拡大以降は中止が続いてしまった。2月以降は調理・食事のないプログラムに変更して実施した。



わくわくほーむ(夏)

- ・城南島キャンプ場でキャンプ体験
- ・蒲田名物の銭湯で入浴して帰宅



- ・コロナを考慮して野外の活動に変更
- ・複数日程実施予定を1日のみに変更
- ・感染対策を含む衛生管理の徹底
- ・耳が聴こえない子どもがいたため職員はマスクではなく透明のマウスガードを着用
- ・公共交通機関を使わずデイサービスの車を社会福祉法人の協力を得て送迎を実施

わくわくほ一む(冬)

- ・コロナ感染症の急拡大に伴いやむなく春休みに延期

季節行事の体験と情緒的交流

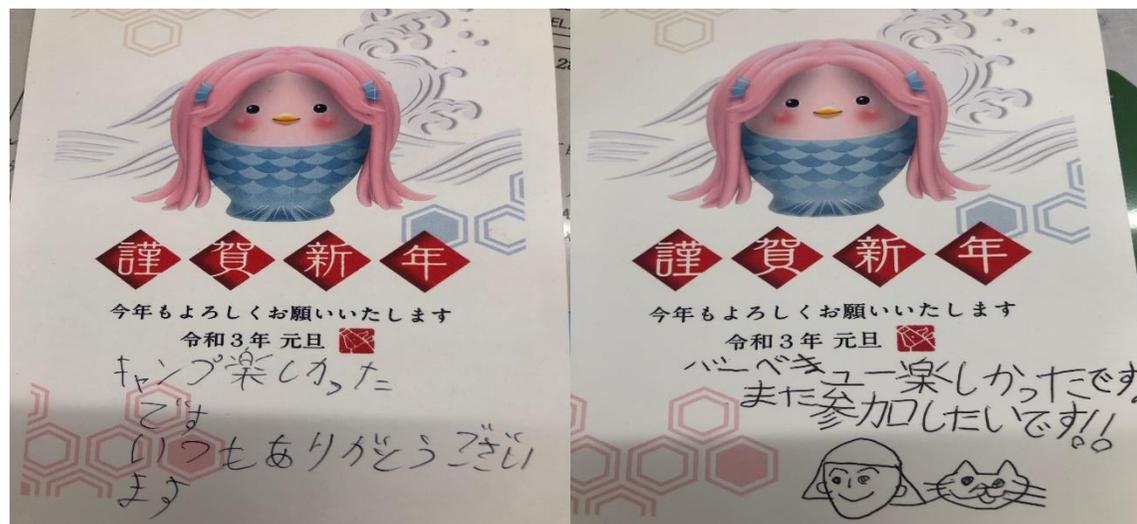
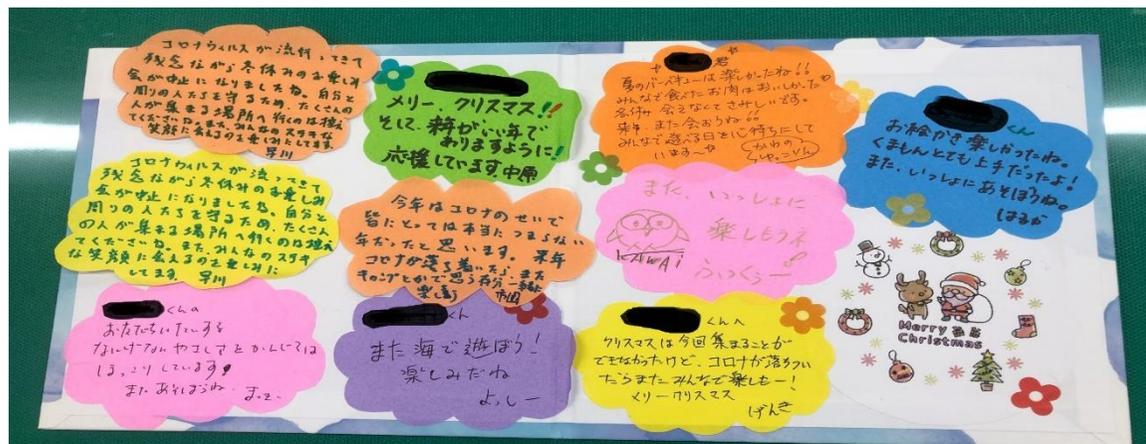
・クリスマスカード風のスタッフの
寄せ書きと夏のアルバムを送付



・年賀状を同封して子どもに返信
してもらう



・リモート等の代替え案もあったが
環境の整わない家庭の子が多く
結果、伝統的な文化を体験しつつ
交流を図ることができた。



のびのび

- ・初回の募集で定員(10名)が一杯に。現在待機者ができている状況
- ・支援機関と連携して実施したことで、活動以外の状況把握ができた
- ・保護者同士が同じ悩みを共有する場にもなっている
- ・どこにも外出できない児童が「のびのび」だけ行ける。大変助かる(保護者)
- ・学校にまったく行けていない。ここだけでも行けていると良い。(学校)

わくわくほーむ

- ・3分の2以上の児童が2年間継続して参加
- ・支援機関が支援困難な家庭にアプローチ可能に
- ・普段宿題をしない子がわくわくほーむで宿題をするように
- ・関係機関と連携した見守りの場として機能
- ・普段学童に行かない息子がとても楽しそうに帰ってきた。普段なかなか構ってあげられない。有料でもいいから続けて欲しい(保護者)

課題と原因

- ・コロナ禍での安全な実施と目的を達成するためのプログラムの実施
- ・安定的な事業運営のためのスタッフの確保と育成
- ・不登校の居場所についてのニーズがあることが分かった。
しかし、ニーズを充足できる場所が足りない。
- ・活動の発信と社会的課題の認知を促す

今後の対策

- ・コロナ禍でも安全に実施でき、目的が達成できるプログラムの再構成
- ・スタッフの役割の明確化とボランティアに対する研修プログラムの実施
- ・居場所の実施に興味がある団体やボランティアと連携して実施することで他地域への展開や広がりにつなげる。
- ・行政・教育委員会への発信と住民の理解の促進